

WEEKLY NEWS 2016 週報 通算 2225回 《38回》

第2640地区

和歌山東南 ロータリークラブ

<http://www3.cypress.ne.jp/tonan-rotary.html>



人類に
奉仕する
ロータリー

会長 土屋一博 幹事 中曾真二郎
会報委員長 山本真司
例会日：水曜日 例会場：Mメール華月殿
第1・第2：18:30～(夜)
第3・第4・第5：12:30～(昼)
事務局 E-Mail
a-rotary@coral.cypress.ne.jp

本日の例会
5月17日(水)
12:30～華月殿

- ・開会点鐘 土屋会長
- ・ローラーソング 四つのテスト
- ・出席報告(例会委員会)
- ・ニコニコ箱(寄付金)報告
- ・会長挨拶
- ・幹事報告
- ・委員会報告
- ・行事「IDM発表④ ロータリー情報・規定委員会」
- ・閉会点鐘 土屋会長

先週例会報告 会場監督 山田さち子

ゲスト：第2640地区青少年交換委員長 山田正人様

会長挨拶

土屋 一博 会長



皆様こんばんは、地区青少年交換委員長 山田様ようこそお越しくださいました。本日の卓話よろしくお願ひします。今月は青少年月間となっております。勉強させて頂きます。ゴールデンウィークはいかがお過ごしでしたでしょうか？ご自身サービス・子供サービスやお孫さんサービスなどなされて楽しい時間をお過ごしになられたと思います。それから、中板さんは病院を退院なされて自宅で療養なさっているそうです。回復をお待ちしたいと思います。

さて、お知らせを送らせて頂きました第3条第5節により、クラブ臨時総会を開催します。内容は2017～2018年度理事の交代による信任投票となっております。細則第5条第3節に会員総数の3分の1をもって本クラブの定員数と有り、出席報告では64.10%を超えておりましたので総会は成立します。「皆様、承認頂けるでしょうか？」拍手をもって、ご承認に代えさせていただきます。満場一致でご承認頂きました。ありがとうございました。

幹事報告

中曾真二郎 幹事



① 2件事務局に届いておりますので、各テーブルに一部置いてあります。お目通しいただき、御入用の方はお持ち帰りください。

- ・ガバナー月信5月号P3に当クラブ社会奉仕事業『和歌山電鐵貴志川線たま電車内本棚に図書350冊寄贈』が掲載されております。皆様お目通しください。
- ・第2820地区青少年奉仕委員会総括委員長の稲本様より「ひろくんに心臓移植を」というお願ひのチラシが届いております。

② ワンワン街頭募金活動の協力依頼について

会長・幹事会(5/9)にて和歌山アゼリア RC から募金の協力依頼がありました。5/15(月) JR 和歌山駅 近鉄百貨店前 16:00-17:30 (雨天決行) 近くにお出かけの際、是非ご協力 よろしくお願ひ申し上げます。

③ 本日例会終了後、定例理事会を開催いたします。役員・理事の皆様、よろしくお願ひ致します。



和歌山東南ロータリークラブ

| | | | | |
|----|-----------|---------|---------|--------|
| | ニコニコ | 米山記念奨学会 | ロータリー財団 | 東南育英会 |
| 累計 | 2,064,157 | 346,000 | 273,200 | 26,000 |

| | | | | |
|--------|-----|------|-----|--------|
| 出席報告 | | | 出席者 | 出席率 |
| 会員総数 | 42名 | 5/10 | 25名 | 64.10% |
| 出席免除会員 | 3名 | 4/19 | 35名 | 87.50% |

ニコニコ箱

中曾真二郎 幹事

土屋君・地区青少年交換委員長山田様 本日卓話よろしくお願ひします。
中曾君・地区青少年交換委員長山田様 本日はようこそお越しくございました。
宜しくお願ひいたします。
竹中君・地区青少年交換委員会山田委員長様 本日はようこそお越しくございました。
どうぞ宜しくお願ひいたします。
本人お誕生日お祝ひ・神谷君、坂口君、山本(唯)君。
ご結婚記念日お祝ひ・竹中君。



米山記念奨学会

小林君・米山記念奨学会をよろしく。

5月 ご本人・配偶者お誕生日お祝ひ



クラブフォーラム 青少年奉仕委員会

卓話「海外スタディツアー ≒ 青少年交換プログラム ≒ Le Ciel」

第2640地区 青少年交換委員長 山田正人様 (大阪狭山RC)



はじめに

私は大阪府立松原高等学校の教員をしております。松原高校には1998年に赴任しました。その後2013年に定年退職するまで勤めていました。そして定年後も再任用と言う制度で現在も教員として働いています。

今日は、「子どもの成長」と言うのをキーワードにして、私がこの19年間取り組んできた「海外スタディツアー」の話と、青少年交換プログラムの話をしようと思います。最後に、私のFuture Planについて話をします。

松原高校の海外スタディツアー

1999年から、フィリピン・ベトナム・タイ・ネパール・スリランカ・カンボジアなどのアジアの途上国に、春休み中に高校生を10名程度引率して、スタディツアーを企画運営してきました。

この旅の目的は、「意識が変われば世界が変わる。」ということを実感することです。私たちの生活はとても便利になっています。暑ければ扇風機やエアコンをつけ、寒ければヒーターをつける。蛇口をひねれば水が出て、パソコンや携帯電話で自由に情報が手に入る生活です。しかし、日本の「当たり前」が、アジアの国の当たり前ではないと言うことを、現地の人で寝泊まりして実感します。便利さを求めていた自分自身の生き方を振り返るようになります。

青少年交換プログラムの意義

さて、青少年交換プログラムの高校生たちは、どうでしょうか？受入留学生はおよそ1年間、日本人の家で生活します。言葉も習慣も違い、極度の緊張の中で、日本と自国の「親善大使」となるために異文化体験をします。最初は緊張で堅くなっていますが、慣れてきて批判的な目で、日本人の行動や教育制度や、家庭のしつけなどに違いを見つけます。しかし、表面的な現象の裏に少し踏み込んで行けるほど日本語が上手になると、本音と建前を理解できるようになります。自分を育ててくれた自分の両親がどれだけ大変だったかも理解できるようになります。

思春期の子どもたちが成長して行く過程で紆余曲折があります。全く問題なく成長する生徒はいません。困難を克服して1年たつ間に素晴らしい成長を遂げます。同時に、派遣した日本人学生たちも、とてつもなく大きな体験をし、自分の人生を変えるほどの貴重な時間を過ごして来ます。

ルシエールの活動へ

海外スタディツアーの経験、ロータリーの青少年交換プログラムの経験を活かす道はないか、日本や海外の若者を育てることができないかと考えてきました。日本人の若者とネパールの若者が WIN-WIN の関係を保ちつつ、それぞれの地域で社会貢献できる人材を作っていきたいと思っています。

感謝

皆様方には、この5年間お世話になりました。受入留学生や派遣留学生にとって、素晴らしい時間を作り、素晴らしい体験の数々を用意していただいた、ロータリアンの方々には、本当に感謝しております。私は、軸足をネパールでの活動におきますが、時にはロータリー活動に参加させていただき、社会貢献、地域貢献に少しでもお役に立ちたいと思います。ご清聴ありがとうございました。



スラムから抜け出すための柔の道。

若者たちはリオデジャネイロの貧困街で、オリンピックを夢見る。

MY ROTARY より抜粋 27-Mar-2017

By ルイス・レナード・D・コウチーニョ&レナータ・コア

16才~21才の若者34人がマットの上で輪になって座っています。皆、はじめは引っ込み思案でも、柔道に対して少しずつ心を開いていきます。リオデジャネイロのスラム街、モロダマンゲイラに住むルーカス・フェレイラさんは次のように話します。「柔道を始める前、8歳の私は当てもなく通りをうろつき、ひどい仲間とつきあっていました」。彼はいま20歳。結婚もしています。モロダマンゲイラのスラムに住むルナン・アルベスさん(19歳)は、柔道で人生が変わると信じ、現在、ロータリークラブ(Rotary Club of Rio de Janeiro-Mercado São Sebastião)がスポンサーとなっている児童施設で教えています。彼自身、この施設に住んでいます。写真提供:Vitor Vogel

10歳で柔道に出会ったルナン・アルベスさん(現在19歳)は、はにかみながら早口で話します。「子どものころ、将来は麻薬密売人になりたいという恐ろしい考えをもっていました。でも柔道が別のドアを開いてくれたんです。柔道は、よき市民として、ブラジルのために闘う道を教えてくれました」。



リオデジャネイロのロータリークラブから支援を受けているこの柔道チームには、周囲のスラム街からやって来た若者300名がおり、フェレイラさんとアルベスさんも同様です。コーチをしているジョアン・ルイス・ミランダさん(Rio de Janeiro-Rio Comprido ロータリークラブ会員)は、助手の力を借りながらチームを組織するために奮闘しています。若者たちにとって、チームでの経験は、暴力と犯罪の日々から抜け出す道を提示するものです。以前リオデジャネイロで警察官をしていたというミランダさんは、1998年に子どもたちの支援プログラムに参加しました。しかし、彼は挫折。「子どもたちの状況は結局、元に戻ってしまい、プログラムは助けにならないと感じました」。翌年彼は、警察でスポーツプログラムを設置することを上司に提案。練習生わずか3名で始ま

ったプログラムは、その後急速に発展しました。今日、チームはサッカーのクラブ施設で練習し、3～13歳のちびっ子メンバーは近くの教会で練習しています。

『オリンピックの有力候補者に』

《私は反抗的な若者でした。誰の言うことも聞こうとしませんでしたから》

ビトリア・ピニエイロ (Força Jovem Judo-CFC インターアクトクラブ会員)

ビトリア・ピニエイロさんは、2020年のオリンピックを目指して毎日練習しています。彼女にとって柔道は、負のエネルギーからポジティブな目標へと視線を変える助けになるものです。そんな彼女は、インターアクトクラブの会員でもあります。自分は誰の言うことも聞かない反抗的な若者だったと語るピニエイロさん。

前回のブラジル柔道選手権で3位となり、もっと上を目指すことを決意しました。コーチのミランダさんは、リオの悪名高いスラム街で育った柔道金メダリスト、ラファエラ・シルバが、すべてが可能であることをチームに教えてくれたと話します。「スラム街出身者が世界チャンピオンになるのを見届けるのは、本当に素晴らしいことです」。この柔道チームは二度も州選手権を勝ち取り、国内屈指の実力を誇ります。世界選手権で優勝したこともあり、昨年は5人の選手がブラジリアでの選手権で、金、銀、銅のメダルを勝ち取りました。

数々の選手権を勝ち取った選手たち。左より: カリーヌ・アンドレイドさん(リオデジャネイロ選手権金メダリスト)、カーラ・ドス・サントスさん(2015年国内チャンピオン)、イサベル・シルバさん(2013年世界選手権準優勝)、ヘレナ・ミランダさん(国内選手権銅メダリスト)

写真提供: Vitor Vogel



『空腹で気を失っても不思議じゃなかった』

チームとして常に成功の道のりを歩んできたわけではないと、警察官を引退し、ボランティアで柔道を教えてきたミランダさんは話します。「6年前までは最高でも15位だったんです。選手もトレーナーも優秀ではありましたが、でも子どもたちは、空腹で気を失っても不思議じゃないような状態だったのです」その後、ロータリークラブの支援によって選手たちのパフォーマンスは変わりました。クラブは地元の食糧バンクと協力し、食べ物を毎月、チームメンバーとその家族に提供しました。また、ロータリー第4570地区の17クラブによってユニフォーム代と競技登録料が賄われ、筋力トレーニング設備も設置されました。彼らは、オリンピック武道競技のための支援を行っているロータリーグループ(GRAAMO)と協力し、地元レストランの使用済み食用油をリサイクル工場に売って資金を調達しました。フランスのINEO do Brasil Engenharia e Sistemas社もチームの主なサポーターです。

《私たちの目標は、何かよいことへの道と、犯罪以外の選択肢を子どもたちに示すこと》

ジョアン・ルイス・ミランダ(ロータリー会員&柔道コーチ)

『一人ひとり、新しい生活へと』

チームの誰もがプロのアスリートを目指しているわけではありません。ジャーナリズムや海洋生物学分野での仕事を考えている人もいます。子どもたちから「教授」と呼ばれているジョアン・ルイス・ミランダさんは、子どもたちに将来のためのガイダンスを示してきました。「みんな貧困地域に住んでおり、一人ひとり丁寧にサポートしながら地域社会を改善することが大切。私たちの目標は、何かよいことをする方法と、犯罪以外の選択肢を子どもたちに示すことです」。柔道プログラムへの参加は無料。しかし、プログラムに残るための要件があります。それは、ちゃんと学校に通い、よい成績を取り、家族、友だち、同級生、そしてチームメンバーを尊重することです。柔道チームに入って2年目のイーレイン・マルティンさんは次のように話します。「先生がどれほど私たちの力になっているか、先生たちには分かってないかもしれません。私は心の底から言いたいことがあります。それは、私たちは本当のファミリーだということです」。

(編集者より: 本記事に登場し、創設者またコーチとしてこのForça Jovem柔道チームを育て上げたロータリー会員のジョアン・ルイス・ミランダさんは、2017年1月に逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。)